

大原の四季の花

大原には豊かな自然が残っており、四季折々の花を見ることができます。

春夏には、さまざまな木々が美しい花を見せます。厳寒の1・2月には蠟梅が春の訪れを告げ、3月には白梅、紅梅が早春の空をいろどります。4月には桜、椿が咲きます。桜が寺社の苔や池の水面に散る様子は大変美しいものですが、椿の花が散り敷く様子も華麗です。特に花尻の森は、椿の名所として知られています。

陽気につつまれる4月からは石楠花、れんぎょう、ユキヤナギ、木蓮といった花たちが、優雅に咲きます。5月には牡丹、つつじやさつきなどが加わって、一層はなやかになるでしょう。初夏は庭の苔も、遠くの山の木々も、生き生きと美しい緑を見せます。木々の上では紫の藤の花が風になびき、野には山吹の黄色い花が咲きます。梅雨の時期には紫陽花が白、青、紫、ピンクとさまざまな色で目を楽しませてくれます。7月にはさるすべり、夾竹桃が鮮やかに咲きます。夏の盛りの8月には、寺院の池の睡蓮が一斉に花開きます。

一方、秋冬は野に咲く草花たちがとりどりの姿を見せます。9月に真っ赤な彼岸花が咲いて、菊の季節が訪れます。野原では女郎花、藤袴といった野草たちも花をつけて風情を添えることでしょう。10月には萩の花も咲き、いよいよ秋らしくなってゆきます。日本の秋といえば紅葉ですが、大原の紅葉は大変人気で、毎年多くの観光客が訪れます。しだいに寒さが深まる11月には、紅葉が寺社の緑の苔の上に散る美しい情景が楽しめます。紅葉が散ると寒さも本格的になり、山野も人里も雪でおおわれます。静まり返った美しい情景です。そんな12月には、寒牡丹、山茶花といった冬の花たちが、真っ白な雪景色に色を添えます。常緑の松の緑と雪の白のコントラストも、古来愛されてきたものです。

どの季節に、どこを訪ねても、きっとその折々の花が出迎えてくれることでしょう。